



<N0191>

アマナ（甘菜）

子どもの頃に、春の野遊びに夢中になって走り回っていた自宅近くの土手に、スミレと一緒に生え、白い花をてっぺんにつけた可愛い植物があったことを記憶している。大人になってそれがアマナと知り、もう一度見てみたいと思い、日当たりのいい斜面や畔道で長年探してきたが見つけれずにはいた。数年前に知り合いから近郷某所に自生地があるとのことで案内をしていただき、数十年ぶりに出会うことができた。

里地の環境が変わり、背丈の低い草地環境が減り、減少の一途をたどっている植物である。早春に葉を広げ、春の明るい陽を浴びて養分を蓄え、花を咲かせ実をつけると夏には消えてしまう、スプリングエフェメラル(春の妖精とも)と言われている植物の1つである。



<N0190>

ツクシ（土筆）

子ども時代にツクシ摘みをしたことのある人は多いのでは。今でも小さい子の遊びを見ているとツクシはおままごとの欠かせない材料になっている。ケーキとかスパゲッティとか、プリンだとか筆者が子どもの頃にはなかったメニューだが。ツクシは身近に沢山生えていて、最も親しまれている植物の一つである。

ツクシはスギナと言うシダ植物の孢子葉（孢子をつけるためだけの葉）で、繁殖器官の一つである。山菜としての食べごろは孢子を飛ばす前の若いうちで、調理する前に韮（しらともいう）と呼ばれる葉が退化した部分を取り除くことが必要。ツクシは土筆と書く、形が筆に似ているからだ。